

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 (かきユニット)		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1		
自己評価作成日	平成30年12月 26日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JgyosyoCd=2392600124-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ法人内のクリニックや訪問看護ステーションとの連携で、24時間のオンコール体制をとっており、医療面・健康面において入居者、家族の安心につながっている。また、数多くの委員会、部会を通じて、抱える課題や問題解決を確認、共有しそれぞれのスキルを高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を迎える施設は、2階建てで和の落ち着いた雰囲気があり、広い敷地内にある同法人の特別養護老人ホームと隣接している。法人母体が医療法人であり、施設内に訪問看護ステーションがあることから、24時間オンコール体制が取られており、医療や健康面、精神面で、入居者や家族、職員にとっても大きな安心につながっている。事業所理念にある「個人を尊重し、これまでの人生や思いを大切に、役割を持って生活し、家族や地域との繋がりを大切にしながら、医療連携で安心できる生活」を提供するために、職員は入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。楽しみながら、週2回自由献立の日を設け献立から買い物、調理などの役割を職員と一緒にやっている。地域情報を得て神社や地域の清掃を職員と一緒にしたり、祭りなどに参加して地域とつながりを大切にしている。法人内には接遇委員会など多くの委員会や部会があり、課題解決に向けて話し合い共有することでスキルアップにつなげている。穏やかな雰囲気の居間で入居者はテレビを観たり、職員と談笑しながらゆっくり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「認知症になってもその人らしく暮らせるように」を念頭に4つの柱を掲げ、毎週月曜日に出勤者全員で訓読し、実践につなげるようにしている。	事業所理念は事務所に掲示し、毎週月曜日の朝礼時に出勤者全員で唱和し、共有して実践につなげるよう意識づけをしている。年3回の人事考課やキャリアパスを通じて理念が実践につながるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の活動に参加している。散歩時等、地域の方には進んで挨拶をしている。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等で情報を得て地域の清掃活動や祭り、行事などに入居者と共に参加している。日々の散歩で挨拶を交わしたり、小学校や保育園の催しにも参加し交流を深めている。隣接する特養と合同で行う納涼祭りや餅つき大会には民生委員や地域の方、小学生や保育園児の参加があり地域との大切な交流の場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回数は多くないが、特養と合同での行事にて地域の方々へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、町内会長、町内民生員、地域包括センター職員、家族に日々の取り組みを報告している。家族サイドからの意見を伺うこともありサービスに活かしている。	入居者や家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し、年6回開催している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告などが行われ、平成30年度からは身体拘束廃止についての報告も行われている。出席者からの意見や要望、お知らせ等もあり、その場で話し合ったり、カンファレンス等で協議してサービス向上に活かしている。会議録は家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅希望の利用者を包括的に支援できる様、市の職員と連携して取り組んでいる。昨年度後見人制度の利用に至った入居者が1名おり、その後退居となった。	介護保険事業所連絡協議会に参加し情報交換をしている。市の担当者とは、日頃から手続きなどを通して情報交換をしたり、困難な事例があった時は、助言を得ながら協力体制を取り、支援できるようにしている。市主催の研修会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には「身体拘束排除宣言」を掲げており、日中、玄関は開錠されており出入り可能。戸が開くとチャイムが鳴り、安全対策も行っている。ここ一年身体拘束例は0件である。	身体拘束のマニュアルに基づき話し合いをし、職員の意識を高めている。玄関に「身体拘束排除宣言」が掲げ、職員間で認識し共有を図りながら拘束感のないケアに努めている。日中は玄関の施錠はせず、チャイム等で見守りを行い、安全な環境作りを工夫している。ベッド柵、やスピーチロック等に配慮し、ひとり一人の自由な生活支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加。入居者の内出血跡なども原因究明し対応策を考えるなど、日夜防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主として在宅希望の利用者について、全員で検討し、必要な支援を理解する取り組みを行っている。また、必要に応じて関係者との情報交換を行い活用に向けて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時、要介護認定が上がってしまったなど家族から質問等あった場合その都度対応し家族とのコミュニケーションを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族からの要望があった時点でその都度の対応によって意見を取り入れている。	入居者からは日々の生活の中から、家族からは面会時や行事、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。話しやすい雰囲気作りを工夫したり、対応も迅速に行うように努めている。31年度9月をめぐり、入居者や家族の本音を聞く為に家族アンケートを計画している。いろいろな意見や要望を聞くことで対応改善に努め、運営に活かしていこうと意欲的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスで意見交換や提案をし、検討している。	日々のケア時や申し送り時、カンファレンス等では意見や提案を出しやすい環境作りに努めている。出された意見や提案は協議して運営に反映させている。法人においては年1回の自己評価やスタッフ満足度調査が実施されている。年3回の個人懇談では、各職員から将来に対する希望や処遇についてじっくり聞く機会を設け、更なる成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年延長、資格手当やパート陳言の見直し等を行っている。 自己評価の提出やそれに伴い上司との面談にてコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じての内部研修、外部研修への参加、新卒や中途採用者には新人研修への参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加。東三河グループホームの輪投げ大会では過去最高の参加を得て事業所間交流を図る。系列グループホームでの計画作成者会議を年4回開催、色々な意見交換を通しサービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、本人の要望や不安を伺い、安心して暮らせるように信頼関係を築いている。入居後は本人の戸惑いに寄り添い生活の中で早期の居場所づくりで安心できるように援助する。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行う事により、家族の要望や不安を伺い、安心して暮らせるように信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入段階の家族との面談時には必要に応じ他のサービス、他の事業所の情報提供も合わせて行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという事業の特性を活かし、共に生活をしていく気持ちを持って入居者と接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には現在の状況、状態を報告し、また家族の思い、考え、利用者の生活史の情報等を意見交換し、コミュニケーションを図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に家族からの送りものや写真などを飾る。会話の中に馴染みの地名や昔話など伺う機会を多く持つようにする。	居室には、昔の写真や馴染みの品物を飾り、会話の中で馴染みの場所や思い出が出てくることにより、場の継続が出来るように工夫している。また、新たに特養のカフェや近くの公園、水族館等にも行き、新しい馴染みの場所作りの支援にも努めている。	月1回の絵手紙教室の作品を利用して、馴染みの人に絵手紙を送る等、馴染みの継続や制作意欲につながる工夫も期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の様子を観察し、食席や、外出、レクリエーション参加のセッティングを行っている。トラブル時も一方的な是非にならないように注意をはらう。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際にも、いつでも訪問していただけるよう声を掛けている。 また、必要に応じて写真等の提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が日々の会話、コミュニケーション、表情から本人の思いを把握・推察するように、カンファレンス等で意見交換を行っている。	日々の生活の中で、会話や仕草などから一人一人の思いを汲取り、カンファレンス等で意見交換をし、職員間で共有してケアにつなげている。思いの表出が少ない方については、フェイスシートで背景を把握したり、家族と情報を共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には聞き取りにて基本情報を作成し、カルテに入れていつでも閲覧できるようになっている。家族面会時には会話の中で情報を得られるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化にも気づき職員同士でカンファレンス、記録等で情報交換を行っている。申し送り等改善出来ることはすぐに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れながら介護計画を作成している。3か月に一度サービス計画検討会議を開催し見直しを行っている。	入居者の日常の様子や家族の意向、医療関係者等の情報を基に、ユニットごとに月1回カンファレンスで情報交換を行っている。3か月毎のモニタリングを経て、6か月に1回計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、随時見直しを行っている。	介護計画を立てる時、説明は受けたが話し合っていないとの家族の意見があるが、面会時や行事の折に聞いた家族からの希望や要望、その他の情報を介護計画の中に盛り込まれていることを家族に丁寧に説明することで、家族から介護計画に対する理解がより得られることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用する事で職員間の情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護、緊急時の往診で医療との連携を図っている。また、グループ内事業所対抗の輪投げ大会開催等のイベントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のスーパーや薬局、飲食店を利用し地域での生活を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携は24時間対応。月2回の訪問診療、入居者の健康状態を把握している。かかりつけ医、協力医への受診は職員が行っている。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。月2回、内科と歯科の往診があり、訪問看護師による健康管理も週1回実施されている。訪問看護ステーションが同施設内にあり、緊急時にも速やかで適切な医療が受けられる。24時間医療連携対応が出来る体制となっており、入居者や家族、職員に取っても大きな安心となっている。受診結果は申し送りし周知し、家族への報告も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ内の訪問看護ステーションとの契約にて週に1度の看護師によるバイタルチェックにて入居者の健康状態を把握している。夜間対応も行っている。高齢者の特徴等も相談に応じてもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医しんあいクリニックを介し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医師同席のもと家族への説明を行っている。また、入居時のみならず必要に応じて意向確認を行っている。隣接する特養等他サービスの利用も視野に入れるなどの柔軟な考えのもと支援を行っている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に、医師同席のもと家族へ説明を行い、意向を確認している。状態に変化があった場合は早い段階から家族と話し合い、再度意向確認を行っている。隣接する特養なども視野に入れながら、医師や訪問看護、その他関係者と話し合い、入居者や家族が安心してよりよい生活が送れるよう支援している。訪問看護師による看取りの技術やメンタルの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内QCにて救急対応マニュアルの見直しを行う。全職員の理解を深め初期対応の充実をはかる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。今年度は台風の直撃があり、停電時の対策を強化した。	法人全体で防災対策について話し合われ、災害時安否コールシステムが導入されている。法人との合同訓練を含め年4回の防災訓練が行われている。地震では、なまず号の地震体験や炊き出し訓練を行い、夜間を想定した火災訓練では、近隣住民に避難場所での見守りを依頼し協力を得ている。今年度は台風の影響による地域一帯のライフラインの支障により、様々な教訓を得て改善策に取り組んでいる。備蓄3日分に加え、停電に備えた電池やガスボンベ、ソーラーやランタン等を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に応じて対応をしており、特に言葉かけや態度は意識して行動している。	個々の人格や生活状況を職員間で話し合い、職員同士互いに注意し合いながら、誇りやプライバシーを損ねない対応に意識して、支援をするように努めている。親しさと馴れ馴れしさの違いや言葉かけの仕方など特に留意している。年2回、接遇研修を行い、更に質を高める努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、また選択肢を与える事により本人の自己決定を促している。表現しにくい方には十分な声掛けを行い表情等の反応をくみ取るよに努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り努力している。希望がある場合は優先して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や、その人らしさを出せるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、自由献立があり入居者と相談しながら食事を決め買い出しに出かける取り組みを行っている。	法人の管理栄養士が立てた献立による食材で、毎食手作りをしている。入居者はその人の能力に合わせて、食材を刻んだり、盛り付けや片付け、食器拭き等を職員と一緒にしている。週2回自由献立の日があり、職員は入居者と一緒に相談しながら献立を決め、食材の買い物や調理をしている。代替え食や喫食状況による対応を行っている。行事食や外食ツアー、出前寿司、おやつ作りなども楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成している。必要に応じて水分摂取量のチェックも行っている。嗜好の問題で食べられない食品がいる方は別メニューで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行っている。 夜間は義歯を預かり洗浄剤で清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄リズムを把握する事に努めている。便座に座れる限りは日中トイレを使用し自然な排泄を促している。	排泄チェック表を活用したり、表情やしぐさなど一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けをしながらトイレでの自然排泄を促している。夜間はオムツ使用の方も、日中は紙パンツを使用し座位での排泄支援に努めている。便秘予防では水分摂取や適度な運動を奨励し、改善がない場合は医療と連携を取りながらの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し生活の中での水分摂取や適度の運動を行っている。医療との連携にて下剤の使用や訪問看護による滴便での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日の設定などは行っておらず、その都度の促しによって行っている。時間帯は人員配置上、日中に行っている。	入浴は曜日の設定は行っていないが、週2回は入浴できるように支援している。日中のゆったりした時間帯で、促し方のタイミングや方法に気を付け、一人ひとりが入浴を楽しめるようにしている。冬季のヒートショックや湯の清潔、足マットなど衛生面にも配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯を楽しんだり、時には好みの入浴剤等も使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は個人の希望にそっている。習慣や体調、状態に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報は個人のカルテに処方毎に保存しておりいつでも閲覧できるようになっている。また薬剤師からの居宅療養管理指導も入っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や個性を把握し、日々の生活を送っていただくよう支援している。また季節に応じた行事なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって季節感を感じられるような外出レクを企画している。時に集団行動にこだわらない少人数での外出も行っている。家族との外出も支援している。	希望に沿った外出支援に努めている。天候の良い時の散歩や食材の買い物、更新手続きの同行など機会を見つけては個々に外出できるよう支援をしている。初詣や梅、桜、菖蒲などの花見等、季節の行事を計画している。年2回の施設全体のハウスクリーニングの時は、資料館等に行き、お昼は外食を楽しんでいる。墓参りなど個別の外出では家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在事務所にて金庫管理。支払い時等渡し、清算をしてもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の希望を聞き支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気、日中の日差しを十分取り入れ温度、湿度等空調管理をし、入居者が快適に過ごせるよう配慮する。	左右のユニット間には可動式の間仕切りがあり、クリスマス会などのイベント時には間仕切りを外し広いリビングとして、皆で楽しめるように工夫されている。共用空間は空調管理がされ、不快な音や臭いに留意している。安全面にも配慮し歩行の妨げになるようなものは置かないようにしている。季節ごとの入居者の作品や職員のイラストが飾られたリビングは、落ち着いた明るい雰囲気が感じられる。毎日入居者と一緒に清掃をしているリビングで入居者はテレビを観たり談笑してのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席を用意し、自由に過ごせるようになっている。食席にはトラブルにならないように、また見守りの必要性などを配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン以外の家具は馴染みの物を持ちこんで使用している。	備え付けのベッドやエアコン以外は、入居者が使い慣れた馴染みの筆筒や小物、テレビなどが置かれ、家族の写真や作品が飾られている。窓には障子がはめ込まれており、落ち着いた和の雰囲気を醸し出している。入居者が居室でどのように過ごしたいかを聞き、家族と相談しながら居心地の良い空間作りを工夫している。クローゼットも大きく収納できるので、すっきりとした清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩き用の手すり、シルバーカーや車椅子を使用しても移動しやすいスペースを確保している。施設内に段差がな1人でも安全に移動しやすい環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 (いちごユニット)		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1		
自己評価作成日	平成30年12月 21日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392600124-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ法人内のクリニックや訪問看護ステーションとの連携で、24時間のオンコール体制をとっており、医療面・健康面において入居者、家族の安心につながっている。また、数多くの委員会、部会を通じて、抱える課題や問題解決を確認、共有しそれぞれのスキルを高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を迎える施設は、2階建てで和の落ち着いた雰囲気があり、広い敷地内にある同法人の特別養護老人ホームと隣接している。法人母体が医療法人であり、施設内に訪問看護ステーションがあることから、24時間オンコール体制が取られており、医療や健康面、精神面で、入居者や家族、職員にとっても大きな安心につながっている。事業所理念にある「個人を尊重し、これまでの人生や思いを大切に、役割を持って生活し、家族や地域との繋がりを大切にしながら、医療連携で安心できる生活」を提供するために、職員は入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。楽しい食事では、週2回自由献立の日を設け献立から買い物、調理などの役割を職員と一緒にやっている。地域情報を得て神社や地域の清掃を職員と一緒にしたり、祭りなどに参加して地域とつながりを大切にしている。法人内には接遇委員会など多くの委員会や部会があり、課題解決に向けて話し合い共有することでスキルアップにつなげている。穏やかな雰囲気の間で入居者はテレビを観たり、職員と談笑しながらゆっくり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示してあり、毎週月曜日の朝礼で理念を訓読し、共有・実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、定期的に回覧板が回っている。神社の清掃・地域の保育園とも特養を通じて交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて貢献出来るような機会をまだ作れていないのが現状。今後の課題でもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の1回の開催・町内会長・包括センター職員や入居者・家族と、活動報告を通じて日々の取り組みを理解して頂いている。それぞれに意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊川市の介護保険事業所連絡協議会に参加し情報交換をしている。市担当者とは、様々な手続きを通じて情報交換をし、指導・助言を受けている。また、豊川市の介護相談員派遣事業の受け入れもしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動の制限を緩和する為、日中施錠をしないようにしている。扉の開閉はチャイムで知らされ、見守りを行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じて虐待問題について学ぶ機会を持ち、気になる所はスタッフ同士で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者との情報交換をし、活用に向けて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、契約内容を具体的に説明し、不安や疑問に対しては十分な理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等において意見や要望を聞く機会を設けている。普段の面会時でも、家族と話す機会を作る事で色々な意見を取り入れられるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等でスタッフの意見や提案を出せる機会がある。出来る限り要望に添えるよう努めている。自己評価提出・スタッフの満足度調査を法人で実施している。また個人面談も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表・職員満足度調査などを行い、個々の状況把握に努めている。面談を行い、向上心を持って取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等をスタッフの目に付く場所に置き、参加する機会を確保している。スタッフ全体の質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換の場としている。法人内の事業所と合同イベントを行う機会もあり、お互いの刺激になっている。研修も少しずつ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用面接時、生活状況、希望、不安な事を把握してスムーズに利用開始出来るように、初期の信頼関係作りに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に得た情報を、書面や口調でスタッフに周知し、信頼関係の構築に努めている。家族や、面会者に対し、十分な時間を確保し相談したり、気楽に話しが出来るような環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の「その時」必要なサービスを助言し信頼関係作りに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方から、昔ながらの習わしを教えて頂く事も多く、共同で食事作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には現状報告をしている。毎月1回の手紙で最近の状況・外出時の出来事を書いてお知らせしている。支援の内容によっては、家族に協力をお願いしている。家族しか知らない情報を聞きだす事もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪もある。居室でゆっくりと過ごせるように支援している。特養にも家族が入居している為、面会に行かれる人もいる。入居者の作品はフロアーに飾ったり・居室に飾ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で相性が良くなく、トラブルになりそうな入居者同士には食席にも配慮している。個々の感情を受け止め関係作りを支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際、いつでも訪問して頂けるように声掛けを行っている。関係が途切れないうようにしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から本人の思い、希望を把握出来るよう努めている。「行きつけの美容院に行きたい」との願いをされる利用者もいる。今後の対応検討中である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には聞き取りにて基本状況を作成し、その後は本人や家族との会話の中で情報を収集している。居室は本人が使用していた家具・自宅で使用していた物を使っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化を見逃さないように努めている。ユニットノートを作り情報を把握している。個々に合わせ、それぞれの生活をして頂いている。家での延長として考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞きながら、介護計画を作成している。各担当スタッフが中心となり、モニタリング・アセスメントを開催し、ご本人の思いを反映させる仕組みとしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック表・個人記録・申し送り時や申し送りノートを活用する事により情報の共有に努め、日々の実践や介護計画作成にも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な状況時や面会・外出などは柔軟な対応に心がけている。訪問看護・訪問診療等他職種や他の事業所とも連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を持ったり、町内清掃に参加し、地域との関わりが持てるように支援している。薬局・スーパーが近くにあり、頻りに利用し、入居者と出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人診療所(しんあいクリニック)がかかりつけ医となる。24時間対応。月2回の訪問診療。歯科受診・協力医への受診はスタッフが行う。その後の報告は、豊川東三河ほいっぶネットワークで連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションマチニワと契約をし、週1回の健康チェックや、日常の相談、24時間急変時の協力体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームより情報交換を行っている。また必要に応じて病院等に訪問し、状態を把握した上で退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に説明・医師同席で意向確認を行う。状態が変わった際には必要に応じて再度意向確認を行う。本人にとってより良い生活を考えながら支援している。看取りおこなう。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救急救命講習会に参加されているスタッフもいるが、今現状参加されていないスタッフもいる。内部にて実践力の強化をしていく必要がある。スタッフの自主的な勉強会などは行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に遅れている。夜間想定訓練は一回実施されたが、スタッフ側の心がまえは準備万端とは言えない。今年、法人携帯にてスタッフ安否コールが発足された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、認知症状を話し合いスタッフ同士が互いに注意し合いながらプライバシーを傷つけないように接している。入居者の個性や相性も考慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみ取り自己決定出来る様働きかけている。自己決定困難な方には選択出来るような声掛けを意識している。自己にて携帯を持って家族と連絡を取っている利用者もみえる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活である為1日の流れはある程度決めてはいるが、強要はしない。本人の「その時」を尊重したケアを心がけている。ケアプランにそっての個別ケアは行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持に努め、その人らしい個性を出せるよう配慮している。自分で化粧をしている人もいる。乳液・化粧水と持参している人もいて、身だしなみに気を使っている人もいる。かつら使用の人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の自由メニューの際、入居者と相談しながらメニューを決め、買物調理を実施している。一緒に買い物にも行くようにはしている。盛り付けの準備・食器拭き・出来る事を見守りながら行っている。お寿司・マック・お弁当の日もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。必要に応じて個別に水分摂取量もチェックし栄養が摂れているのか確認している。嚥下状態が悪い利用者にはとろみ対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて声掛け・介助を行っている。就寝前の義歯預かりをし、ホリデントで消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促している。リハパン・パットの必要な利用者にはトイレに行き、確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより把握に努める。便秘の方は水分摂取の促しや、体操等を行い、自然に排便を促している。オリゴ糖も使用している。便秘症の方にはDrに相談し、内服で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	言葉を掛け、促しのタイミングや方法に気をつけ支援している。入浴時間は基本的日中に行っている。入浴する曜日は決めていないが、2日以上にはしない様心がけている。回数が少ない方には清潔が保てる様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。本人の意向・体調を確認した上で、休息がとれるように配慮している。昼寝を促している利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確な服薬支援を行う為に、薬剤情報をすぐに確認出来る状態にしている。変化があれば記録に残し、医師・看護師・薬剤師への報告・相談も出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や個性を理解し、日々の充実感や楽しみを持って暮らせるよう支援している。大正琴を弾かれる方もいる。塗り絵・風船バレーを行い気分転換される方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の体操は多くの利用者の日課となっている。外出・ドライブなどの行楽については希望を聞いて実現に近づけている。家族と喫茶店に行かれる方もいる。季節の外出も行っている。特養に知り合いがいたりして、会いに行かれる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や心理状況に応じてお金を管理している方もいる。自己管理困難な方の場合は預かり金として、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り希望に沿えるよう対応している。家族・友人・親戚からの年賀状が届き、本人に渡している。自己にて携帯も持たれ家族に電話をしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ち着いた雰囲気になるよう配置している。廊下など暗くなりすぎないように配慮している。また季節感のある掲示物・写真・スタッフと利用者共に作成し、提示してある。事故防止の観点から負必要な物は置かないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブル・ソファ席でそれぞれ過ごせる。玄関にも椅子を置き、靴を履くときも座って頂くようにもしている。廊下での日向ぼっこでも使用できる椅子もあり、声を掛け使用して貰っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や自分で作られた作品を貼るなど、一人ひとり雰囲気が異なる。家具は使い慣れた物を中心に家族に用意して貰っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てに段差はなく、廊下・トイレには手すりが設置してあり、安全を前提である。シルバーカーや車イスを使用しているも移動しやすいスペースを確保している。		